



上段3点：祐天上人三百年御遠忌地蔵菩薩。地蔵菩薩像は故・長岡和慶師が祐天上人本地身地蔵菩薩像を写して、花沢石の一つ石から彫り出し、背面に祐天上人の名号を刻む。台座は白みかけ石を躯体として組み、小松石を取り付けた。台座の制作、地蔵菩薩像の設置は同社が施工

左は工程写真。1基礎 2台座躯体の設置(白みかけ石製) 3台座完成(小松石張り) 4-5地蔵菩薩像の運搬と設置 6地蔵菩薩像の設置完了

*写真1-6：(株)彩石提供



祐天寺は、江戸時代中期に活躍した浄土宗の高僧・祐天上人の遺命を受けた弟子・祐海上人によって、享保3年(1718)に建立された。8代將軍吉宗から寺号「明顕山祐天寺」を授与されるなど、徳川家による特別な処遇を受けた名刹で、本堂・書院・地蔵堂・表門・鐘楼(いずれも国登録有形文化財)など、多くの文化財建造物を有する。写真は本堂。もとは將軍家代々の御霊殿を曳き移して再建されたもの(創建時の本堂は明治期の火災で焼失)

浄土宗
明顕山祐天寺
東京都目黒区中目黒5丁目24番53号
<http://www.yutenji.or.jp>



(株)彩石の境内整備事業

祐天寺の石造物

長岡和慶師制作の地蔵菩薩像設置や祐天上人名号石塔の移設など

株式会社 彩石

本社：東京都文京区小石川3-3-7
tel. 03-6801-8902 <https://saiseki.net/>



祐天上人三百年御遠忌地蔵菩薩像を挟んで、右は(株)彩石・大西正也社長、左は同社施工部の築井英明さん

寺院を専門に、墓地・墓石や樹木葬・納骨堂の企画販売・管理、無縁墓・永代供養墓の整備、福利厚生&健康サービス(THEZEN倶楽部)、建築石工事(寺院以外でも)など、多角的な事業を展開し、豊富な実績を築き上げている(株)彩石(大西正也社長)。文化財指定の歴史的石造物の整備・移設を含む、寺院の境内整備事業も多数手がけており、多くの名だたる寺院から高い評価と信頼を得ている。

そのうちの一例が、祐天寺(東京都目黒区)での境内整備事業である。二〇一七年の「祐天上人三百年御遠忌地蔵菩薩像」の設置工事とそれに伴う「本地身地蔵菩薩略縁起碑」の移設工事、また二〇二三年の「祐天上人名号石塔」の修復・移設工事などを請け負い、いずれもその信仰や歴史、価値を後世に伝えるにふさわしい、丁寧かつ堅実で高精度な仕事を納めている。

祐天寺は、享保三年(一七一八)創建の浄土宗の名刹。江戸時代中期に多くの人々の信仰を集めた高僧・祐天上人(一六三七〜一七一八年、浄土宗大本山増上寺三十六世住職)を開山として建立され、八代將軍吉宗に寺号「明顕山祐天寺」を授かるなど、徳川將軍家の厚い信仰と庇護のもとに大きく発展した。阿弥陀堂や仁王門など歴史的建造物や、祐天上人墓所など文化財的価値の高い石造物も多く、寺内に設けた研究室ではこれらの研究と継承に力を入れている。

まず紹介するのが、「祐天上人三百年御遠忌地蔵菩薩像」の設置工事である。こちらは文字どおり、祐天上人の三百年御遠忌を記念する一大事業として行なわれ、同社は地蔵菩薩像の台座制作と設置工事を手がけた。地蔵菩薩像は大仏師・長岡和慶師(一九五五〜二〇二五年)により制作されたもので、祐天寺地蔵堂に祀られている祐天上人本地身地蔵菩薩像(二七九七年に長野・松本の光明院から遷座)を写した名品。徳川家とゆかりの深い花沢石(愛知県産)の一つ石から彫り出され、蓮台部分には和慶師の創作により躍動感あふれる意匠が表現されている。

「地蔵菩薩像(重量三・五トン)は七トンの原石から彫り出されています。背面には、江戸時代より全国で広く信仰されてきた祐天上人の名号『南無阿弥陀仏』が刻まれ、まさに祐天上人本来のお姿を表した地蔵菩薩像といえます」(祐天寺研究室の瀧田博美さんと武田未来さん)

その台座は、単に三・五トンという重量だけではなく、祐天上人に対する厚く深い信仰心をも支えるものとして制作された。祐天寺と和慶師との協議を経て、形状は安定感があり、かつ



1 同社は折れていた塔身の修復も行なった 2-3 隅田公園の片隅で発見され、救出・調査された *写真2-3: 祐天寺研究室提供

祐天寺研究室では、各地に建立されている祐天上人名号石塔の情報を募集しています。名号石塔は墓石として、あるいは地域の信仰の対象として数多く建立され、「南無阿弥陀仏 祐天/花押」が刻まれています。お心当たりのある方は、同研究室 (tel.03-3712-9801)へご一報ください。

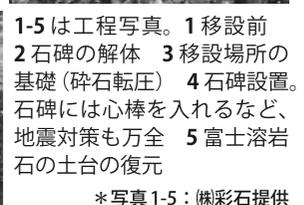
隅田公園から祐天寺境内へと移設された祐天上人名号石塔(台座は稲田石で新設)

心の注意を払い、惜しくも崩壊してしまった部分は新たに同質の溶岩石を補充しながら、元の形状へと正確に復元している。そして、「祐天上人名号石塔」の修復・移設工事である。祐天上人の名号には延命長寿、安産子守り、防火、水難除けなど多くのご利益があると信じられ、全国各地にその名号を刻んだ石塔が建立されてきた。祐天寺研究室によると、その数は「確認されたものだけで三百五十基以上になる」といい、しかも「いまだに発見されていない石塔が多数あるはず」ともいう。

同社は修復・移設した名号石塔もその一つだ。塔身は下部が切断されたうえに二つに折れ、いつの頃からか隅田公園(東京都墨田区の隅田川岸)の人目につかない草むらに置き去りにされていた。発見後、同研究室による詳細な調査を経て、同社がその指導のもとで塔身を修復し、稲田石(茨城県産)の台座を設けて祐天寺境内へと移設した。いま祐天上人のもとに帰されたこの名号石塔の石肌は、多くの人々の祈りが重なり、実に静かに色づいている。その美しさを未来へとつなぐのもまた、(株)彩石の仕事である。



上2点: 移設された本地身地藏菩薩略縁起碑。1800年代初頭の建立で、江戸町火消が尽力した



1-5は工程写真。1 移設前 2 石碑の解体 3 移設場所の基礎(碎石転圧) 4 石碑設置。石碑には心棒を入れるなど、地震対策も万全 5 富士溶岩石の土台の復元

*写真1-5: (株)彩石提供

地蔵菩薩像がより引き立つよう八角形とし、白みかげ石製の頑丈な躯体に、徳川家諸廟所に使用されている小松石(神奈川県産)を取り付けている。小松石の加工は茨城産地で行ない、台座下部は丹念な小叩き仕上げ、上部は研磨仕上げとして、同じ石でありながら異なる表情を生かして地蔵菩薩像を荘厳にお祀りした。

この地蔵菩薩像は、もとは「本地身地藏菩薩略縁起碑」が建立されていた参道沿いに設置された。つまり、まずは同略縁起碑の移設工事が行なわれたわけで、こちらも同社が施工した。同略縁起碑は、前述の祐天上人本地身地藏菩薩像が信州から遷座された経緯などを記す石碑で、祐天上人の地蔵菩薩像には延命と防火のご利益があるとの信仰から、当時の江戸町火消がその遷座や石碑の建立に尽力。中央円形の石碑表面に祐天寺六世祐全上人の名号を、裏面に江戸町火消の組織図などを刻む貴重な史料でもある。

その移設工事では、富士溶岩石による台座の解体・復元、江戸町火消を前身とする江戸消防記念会が設置した外柵石柱の移設なども行なった。特に崩壊しやすい富士溶岩石の扱いには細

彩石グループ THE ZEN 倶楽部

Benefit one Dai-ichi Life Group

福利厚生サービス最大手・(株)ベネフィット・ワンと提携

檀家、信徒募集に繋がる 宗教法人の為の福利厚生

霊園や樹木葬など、寺社の基軸サービスをご紹介します!

ベネフィットステーション 1100万人以上の会員向けPR

代理店を募集中です! 03-6801-8820

【運営元】〒112-0002 東京都文京区小石川3-3-7 THE ZEN 株式会社 ((株)彩石グループ) https://the-zen.jp info@the-zen.jp